

令和4年度 地理歴史科 「歴史総合」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年A～G組
教科書	高等学校 歴史総合(第一学習社)	副教材等	

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成する。

- ・世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ・近現代の歴史事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・近現代の歴史学習を通して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	序			グループワーク 定期考査(4回) 課題提出
		世界の宗教概観	キリスト教・イスラーム教・ヒンドゥー教・仏教	世界の様々な宗教を学び、異文化の根源を探る。	
	5	18世紀のアジア諸国	3つの帝国	オスマン、ムガル、清という3つの帝国の歴史と反映について理解する。	
		第1章 近代化と私たち	産業革命	産業革命とは何か、どのような背景があり、どのような経過をたどったかを理解する	
		産業革命とイギリスの繁栄	イギリスの繁栄	産業革命後の社会の変化をイギリスをモデルに考察、理解する。	
	6		第1回考査		
		市民革命	アメリカ独立革命 フランス革命 ナポレオンとウィーン体制	市民社会、民主主義の成立過程を学び、その意義を考察する。	
	7	国民国家の拡大	諸国民の春 ロシアの近代化 イタリア・ドイツの統一	近代欧米諸国の動きを知り、共通点、相違点を理解する。	
		アジア諸国の変貌と日本の開国	オスマン帝国の衰退 東アジアの動揺 日本の開国と倒幕 明治期の日本	アジアの大帝国の衰退と欧米勢力の進出の動きを捉え、その要因を考察する。 日本の近代化の過程を学び、その意義、課題を考察する。	
	8 9		第2回考査		
		帝国主義	帝国主義と列強 日清・日露戦争 日本の工業化と帝国主義	帝国主義時代と日本の動向について多面的に理解する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 国際秩序の変化 や大衆化と私たち	第一次世界大戦 ロシア革命 ヴェルサイユ体制 アジア諸国の独立運動	第一次世界大戦の背景、経過、結果を理解する。	グループワーク 定期考査(4回) 課題提出
	11	第一次世界大戦 と大衆社会	東アジアの民族運動と 日本 日本社会の変化	第一次世界大戦後の国際秩序～ファシズムの台頭～第二次世界大戦の流れを理解し、その背景を考察する。	
	12	経済危機と第二次世界大戦	世界恐慌とファシズム 国際秩序の変化 日中戦争と日本 第二次世界大戦	日本を取り巻く国際情勢の変化、国内政治の変化を学び、その背景を考察する。	
			第3回考査		
	1	第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成	国際連合・国際経済体制 冷戦の開始 戦後日本の歩み	第二次世界大戦終結後の国際秩序について欧米、第三世界、日本を関連づけて学ぶ。	
	2	第3章 グローバル化と私たち	アジア・アフリカ諸国の独立と第三世界の台頭 西側諸国の多極化と日本		
	3	冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	日本の高度成長 米中の動揺		
	4	国際秩序の変容と21世紀の世界	冷戦の終結 地域紛争の頻発とアメリカの動揺	冷戦終結とその後の国際秩序について学び、今後の課題を考察する。	
			第4回考査		

3 評価の観点

知識・技能	近現代の歴史について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	近現代の歴史事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

4 評価の方法

定期考査においては、知識・技能を問う問題、思考・判断・表現を問う問題をそれぞれ出題し、評価を行う。
課題提出により、思考・判断・表現を評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

教科書を学ぶことを超えて、歴史の事象から様々なことを考察し、異文化の理解や現代社会が抱える課題の解決について考える機会にして欲しいと思います。
授業の内容を入れ替えたり、割愛したりする場合があります。